

## 「杉之御坊」の杉

萬福寺所蔵

萬福寺は「杉之御坊」と呼ばれている。その由来は、親鸞聖人がこの地で食後に杉箸を地面に挿し「私の教えを末世に流布すれば、箸より再び枝葉が生じるであろう」と誓うと、たちまち芽が出て、枝葉の茂った杉の巨木（五抱え程）になったとの伝承からきているものである。

その杉は寛延年間に焼けてしまい、現在は境内にある「御杉堂」（火災後に建立されたお堂は「存古堂」と云われていた）というお堂の中に、切り株や焼け残った杉が保管されている。いかに代々にわたって聖人の伝承を大切にしてきたかがこのことから窺える。



杉之御坊の杉